

第29回

うつのみやこども賞だより

平成24年度 第4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『鷹のように帆をあげて』

まはら三桃／著 （講談社）

～読んだ本の感想より～



- りおと鷹の心がつうじあっていき、最後は、もう、りおは本当に「鷹匠」になったなーと思いました。
- 鷹について、くわしく書かれていたし、人物の心の動きもくわしく書かれていたので良かった。
- 私は話の中に出てくる平橋さんについての本も読んだことがあるので、よけいに物事のすごさが伝わりました。
- モコがりっぱだなぁと思った。
- まだ中学生で鷹匠をやるなんて、すごいと思いました。ゆめを見つけるのは、大事なんだと思いました。

●鷹の育て方や理央の気持ちなどがくわしく書いてあっておもしろかったです。少しだけ鷹をかいたくなっちゃいました。

●モコと理央の絆に感動しました。モコが飛べるよう、努力する理央はすごいと思いました。

『夜明けの落語』

みうらかれん／作 大島妙子／絵（講談社）

- 人前ではなかなか話せない暁音が三島くんがしていた落語にちょうせんし、クラスみんなの前で落語を発表できたのは、すごいなと思いました。
- 落語を教わって「じゅげむ」を言っているところがおもしろかった。
- ところどころにある、さし絵がとても魅力的でした。とてもファンタジーあふれる本で、ページをめくるのが楽しかったです。
- みんなの前でしゃべるのがはずかしかった暁音が、最後にみんなの前で落語をしているところがおもしろかった。

『トモダチックリの守り人』吉富多美／作（金の星社）

- とてもおもしろかった。カラス男が少しこわかった。杉田くんを守るために、一生けん命やったことはすごいと思った。
- タケルが野音や、森の精と出会って、トモダチックリの木を守るところが印象的で、すごく面白かったです。
- ようせいたちを守る「守り人」なんて、かっこいいと思いました。
- とても友情がある物語でした。山にすむと、どういふことがあるのかなぁと思いました。ようせいが本当にいたらいいなぁと思いました。

『12月の夏休み』川端裕人／作 杉田比呂美／絵（偕成社）

- ケンタとミノリは子どもなのに2人で旅をしていて、すごいと思った。12月に夏休みがあるのも初めて知った。
- お父さんをさがしている時に、たくさんの動物に出会っていったのが、つぎはどんな動物が出てくるのか、楽しみでおもしろかった。
- まるで自分がケンタになって冒険しているような、ハラハラする物語でした。
- 写真があったのがよかった。

2012年9月2日